

# 四万十町窪川地域中心市街地活性化計画

令和2年3月

四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会

はじめに

四万十町の窪川地域(旧窪川町)は、広大な農地が広がり分散型の集落が形成されている地域です。もともとの窪川中心市街地も水田が広がる盆地でしたが、戦後に公共機関・学校・交通機関の集積が見られ、水田区画を利用した住宅地、商業地が形成されてきました。また、市街地の中にある四国八十八か所霊場の岩本寺を核として門前町としての風情も漂わせています。

昭和中期の高度経済成長期には、窪川駅を中心として通勤や通学、商店街利用のお客、お遍路さんなどで行き交う人々の肩が触れ合うほどのにぎわいを見せましたが、自動車中心の社会へ移り変わりとともに、公共交通の利用者の減少や買い物客の町外流出、特に紳士服、婦人服、くつ、カバン等の買い回り品においては郊外型店舗や高知市の店舗に購買の中心が移行し、徐々に寂れてきている状況にあります。

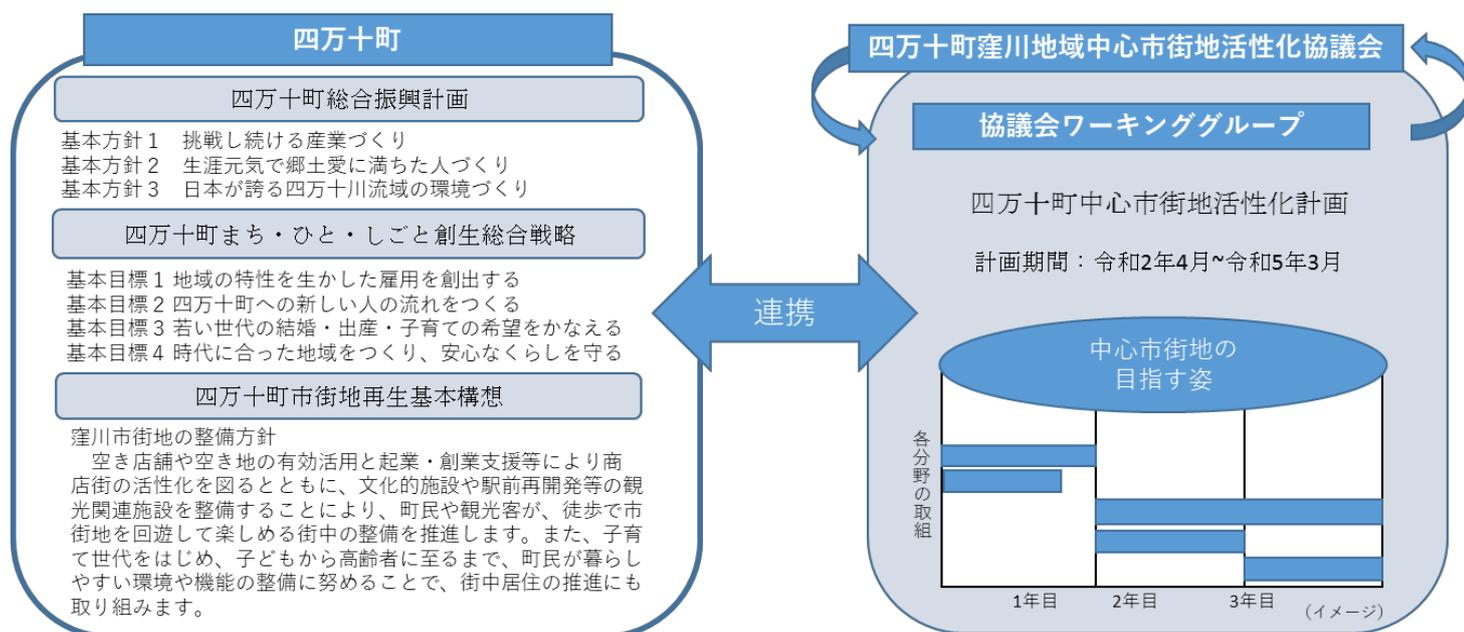
こうした現状もありますが、霊場岩本寺には年間 10 万人とも言われる来場者があり、土産物の購入や飲食店の利用等、町内での消費につながっています。また、平成 26 年には役場の新庁舎、平成28年には農協の野菜直売所「みどり市」が設置され駅周辺が住民行動の拠点として位置づけられてきたことや、令和 2 年にはJR四国による観光列車の運行と窪川駅の改修など明るいニュースもあることや、旧役場庁舎跡地が図書館・美術館等の文化的施設の建設予定地として具体化してきたことから、これを好機ととらえ、街中再生にあらためて取り組んでいきたいと思えます。

## 序章 計画期間等について

### (1) 計画の位置づけと計画期間

本計画は、四万十町の策定する「四万十町総合振興計画」、「四万十町まち・ひと・しごと創生総合戦略」「四万十町市街地再生基本構想」等と連携して取り組みを進めていきます。

本計画の計画期間は、令和2年4月から令和5年3月までの3年間とします。

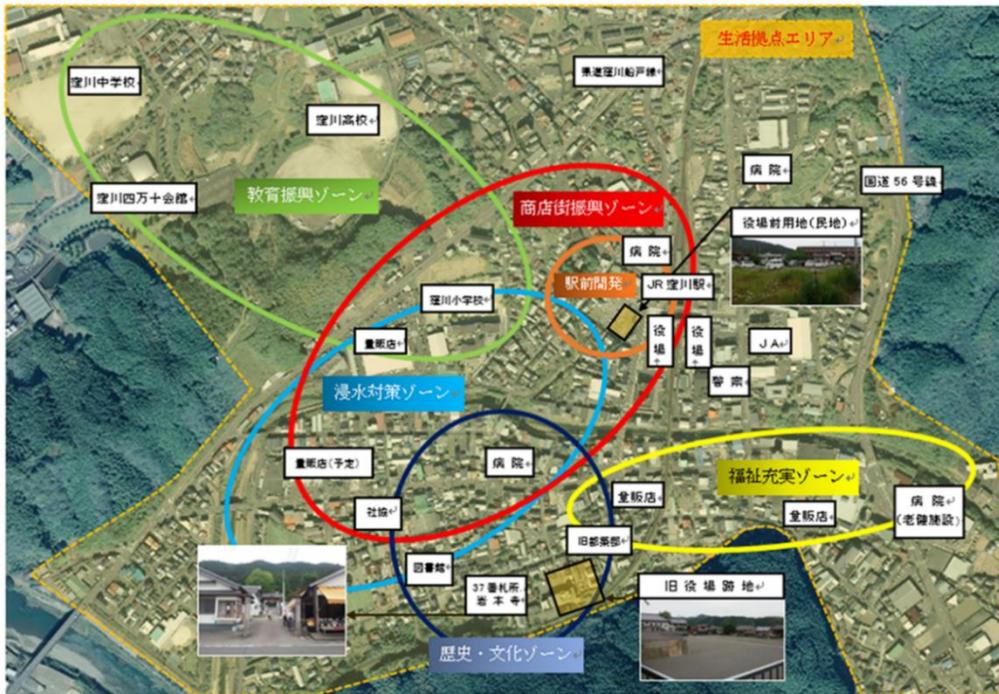


(2) 中心市街地と計画範囲

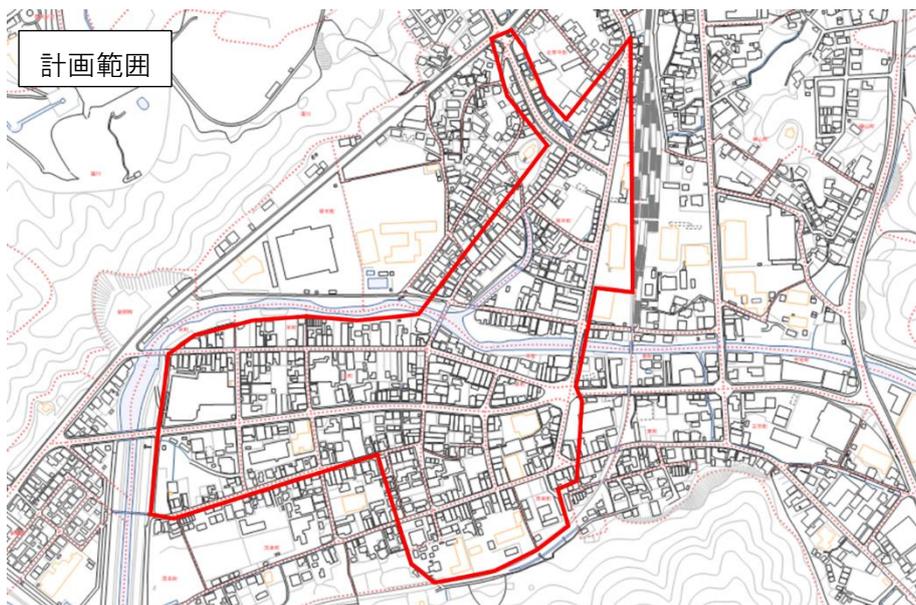
窪川地域の中心市街地は、住宅及び商店が密集する窪川街分の範囲であり、本計画の範囲は、四万十町市街地再生基本構想(平成 30 年度策定)の商店街振興のゾーニングを踏まえ、旧商店街として栄えた本町通商店街、吉見町商店街、お遍路効果を期待できる岩本寺から古民家カフェ半平までの3つの通りを中心とした範囲を設定します。

★ 四万十町市街地再生基本構想(ゾーニング)

窪川市街地(ゾーニング)



★ 本計画の計画範囲

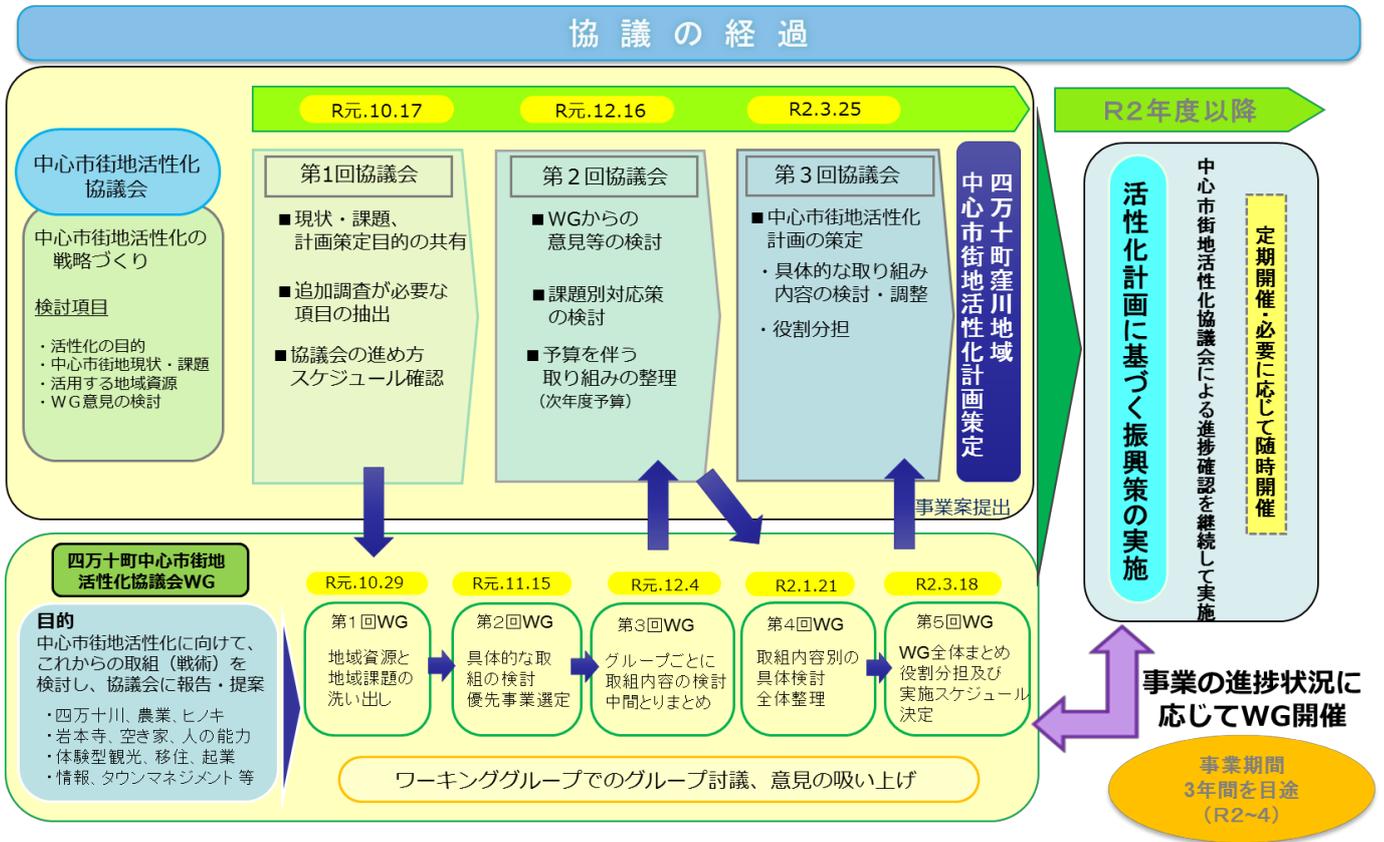
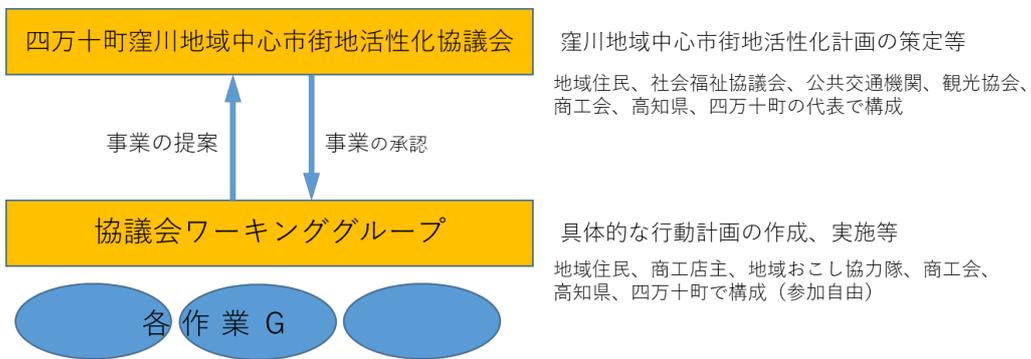


(3) 中心市街地活性化協議会(窪川地域)

令和元年 10 月 17 日に四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会(以下「協議会」という。)を設立しました。協議会は、商工業者、住民代表、行政機関、商工会、社会福祉協議会、交通機関等により構成し、計画の策定等の意思決定機関として機能します。

下部組織として地域住民や事業者からなるワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置し、中心市街地の課題と具体的な事業についての検討を重ねてきており、課題解決に向けての取組を進めます。

【四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会 体制図】



## 第1章 四万十町及び窪川地域中心市街地の概要

### (1) 四万十町の概要

#### 【位置・地勢】

四万十町は、高知県の西部を東から西へ流れる四万十川の中流域、四万十川が海岸に近づき再び山間部に向かって大きく蛇行する位置にあり、東南部は土佐湾に面しています。町域は東西43.7km、南北26.5km、総面積642.3km<sup>2</sup>であり、そのうち林野が約87%を占めています。

四万十町東部に位置する窪川地域は、標高230mの高南台地にあり、約2,000haの農地が広がっています。窪川地域から四万十川沿いの下流部に位置する四万十町中部の大正地域、西部の十和地域は、面積のほとんどを山林が占めており、平地は四万十川と梶原川沿いに点在しています。

これらの地形は、主に高南台地の隆起によって生み出され、四万十川の比較的緩やかな流れが形成される要因となりました。安定的な取水ができるため、河川周辺に集落と水田が発達しています。

このように四万十町は山・川・海・農地と変化のある地勢を有し、豊かな特産品を産み出す要素に恵まれています。



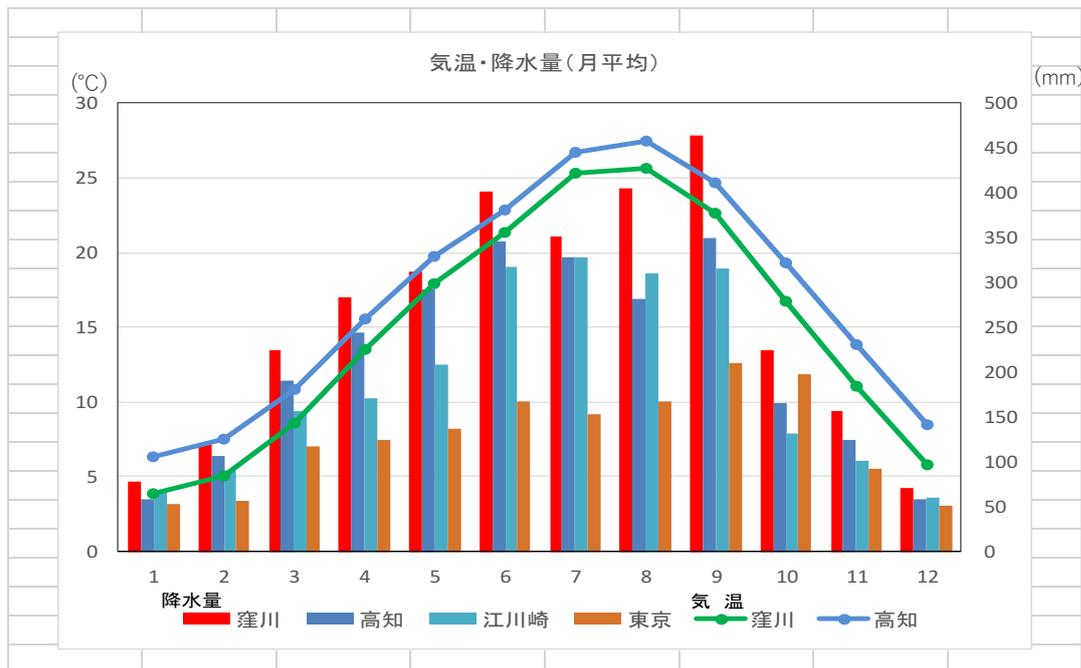
#### 【気象】

土佐湾に面する興津・志和地域では、海洋及び標高の影響により温暖で湿潤な気候(近傍で海沿いの黒潮町佐賀で年平均気温 16.2℃)となっていますが、標高 200m 以上の高南台地は、年平均気温 14.8℃で高知市 17.0℃に比べ 2.2℃低く冷涼な気候となっています。また、年平均の日最高気温と日最低気温の差も 11.0℃と高知市の 9.2℃に比べ大きく、寒暖差の大きな地域です。

年間降水量は 3,089mm と高知市よりも多く、東京のおおよそ倍となっています。一方で日照時間は東京とほぼ同じであることから強い降雨のある地域です。南東の海岸部から吹き込む湿った風の影響などにより特に太平洋高気圧が発達する夏季から秋季にかけて降水量が多い傾向にあります。

また、高南台地ではたびたび夜間や早朝に霧が発生しますが、海岸部からの湿った空気が高南台地に流れ、標高の上昇とともに冷却されて霧を発生させる要因となっていると推測され、四万十川流域では、台地部と同様に朝方の霧が見られますが、これは主に川からの水蒸気が地面や空気により冷やされたり、川が温かい時には水蒸気が多くなり霧を発生させているものと推

測されます。



気象庁データベースより作成

【交通・流通】

本町の交通網は、鉄道では、JR 土讃線が南北に走り、影野、六反地、仁井田、窪川の4駅が設置されています。また、JR 予土線が東西に走り、家地川、打井川、土佐大正、土佐昭和、十川の5駅が設置されています。JR 土讃線窪川駅と JR 予土線家地川駅をつなぐ形で土佐くろしお鉄道中村・宿毛線が走っており、窪川、若井の2駅が設置されています。

本町の主な道路としては、一般国道 56 号、同 381 号、同 439 号及び主要地方道窪川船戸線、同興津窪川線、同大方大正線が走っており、町の幹線道路としての役割を担っています。高知自動車道は四万十町中央 IC まで開通しており、四万十市、宿毛市に向けた延伸が予定されています。



### 【特産物】

本町の特産物としては、海岸部、台地部、大正地区、十和地区それぞれの多様な地形、気候、風土、歴史に沿い多種多様な特産物が生まれています。高南台地では、広がる農地と寒暖差、冷涼な気候を生かした高品質な米、畜産、施設園芸品目が盛んに生産されています。大正から十和にかけての山間部では、やや冷涼な気候と寒暖差を生かし、露地の園芸品目と栗やゆず、豊かな森林資源を生かした木材生産や原木椎茸が主要な作物となっています。

四万十川では、アユやうなぎ、川エビ(テナガエビ)、ツガニ(モクズガニ)が採捕され、漁協単位で商業的な流通が行われています。伝統的な一夜干しや焼き鮎といった加工方法が民間で行われていますが、町外への流通はほとんどが鮮魚もしくは冷凍での流通となっています。

加工食品については、個人、地域の加工グループ、加工事業者といった多様な主体により様々な加工食品が開発・製造されています。

工芸品等については、土佐打ち刃物、集成材製品が代表的なものとなっています。

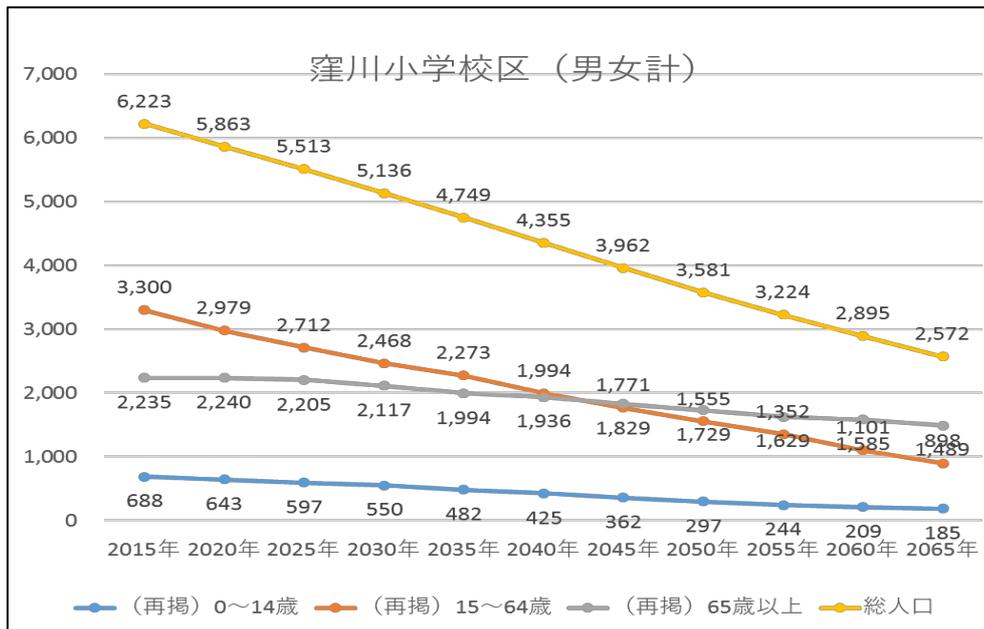


## (2) 窪川地域中心市街地の概要

### 【人口】

窪川地域中心市街地を主な校区とする窪川小学校区においては、顕著な人口減少と高齢化が見られ、2040年ごろには生産年齢人口と高齢人口の逆転が予測されています。買い物客の周辺部からの流入や移住者の流入が期待できるとはいえ、厳しい状況が予測されます。

一方で高齢人口は、今後20年の範囲ではほぼ横ばいです。高齢化社会が進展する中で歩いて行ける身近な存在として中心市街地の商店の重要性が高くなっています。

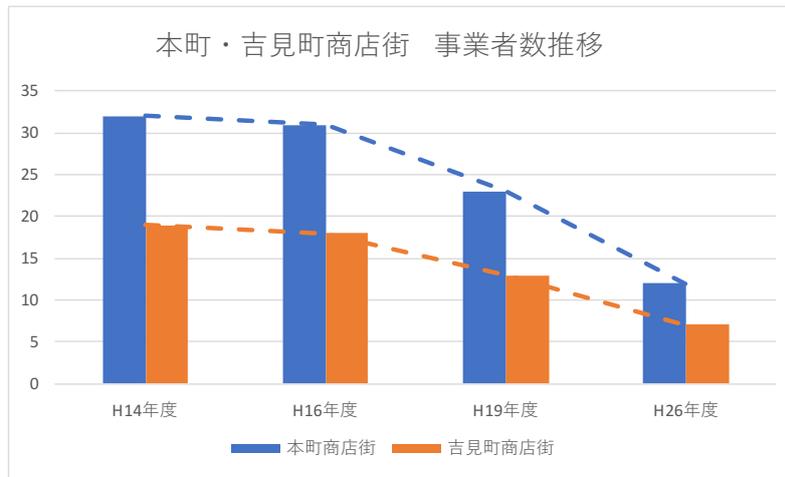


(出典：四万十町人口ビジョン(H27))

### 【商店数】

商店数は、地域人口の減少や高齢化に伴い減少傾向にあり、特に書籍や衣料品店など専門店がなくなっているため、商店の多様性の面から窪川地域中心市街地の魅力が失われつつあります。

また、窪川地域中心市街地は、平成26年8月9日～10日にかけて襲来した台風11号による豪雨で冠水し、本町や吉見町のいくつかの商店が被害を受けました。現在は、遊水池やポンプ場の整備が進められ、冠水の危険性は軽減されつつありますが、冠水を機にいくつかの商店が廃業したことが減少要因の一つとなっています。



	H14年度	H16年度	H19年度	H26年度
本町商店街	32	31	23	12
吉見町商店街	19	18	13	7

(出典:経済産業省「商業統計」)

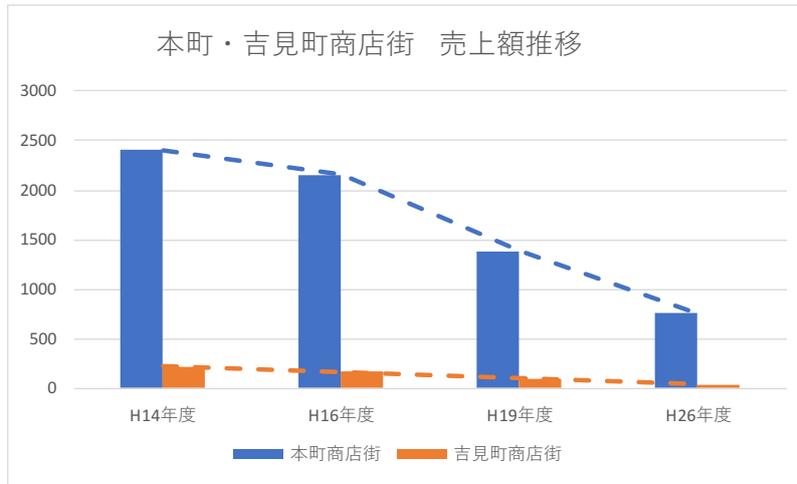


(昭和 58 年ごろの吉見町商店街:商工会提供)

### 【売上額】

商店数の減少に伴い売上額も大きく減少しています。

本町商店街は飲食店、酒蔵、商店があり、減少傾向にあるものの7億円を超える売り上げがあります。一方、吉見町商店街は、個人商店で形成されほぼ売上がない状況になっています。



(百万円)

	H14年度	H16年度	H19年度	H26年度
本町商店街	2406	2157	1383	757
吉見町商店街	214	165	94	33

(出典: 経済産業省「商業統計」)

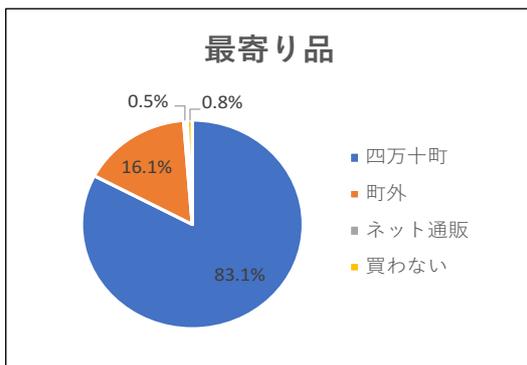


(昭和 58 年ごろの本町商店街: 商工会提供)

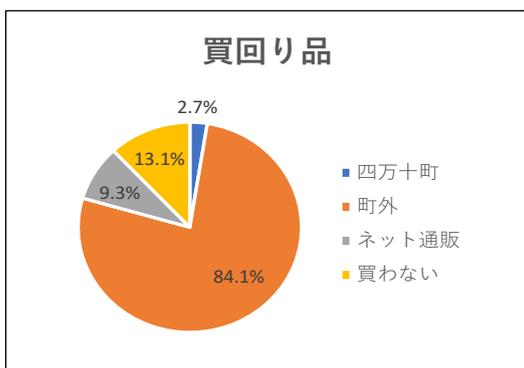
【町民の買い物動向】

平成 28 年度に実施された県民消費動向調査によると生鮮食品や日用雑貨等の最寄り品については、町民の多くが町内で購入しています。

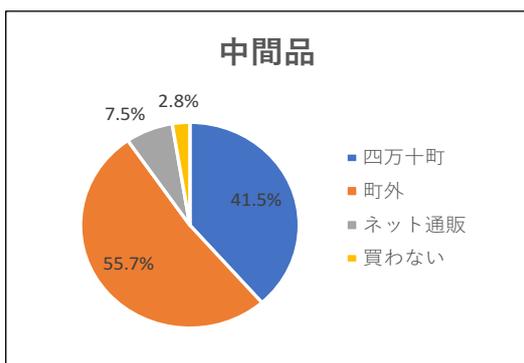
一方、紳士服や婦人服等の買回り品については、専門店が少ないこともあり町外での購入が8割を超えています。下着や医薬品等の中間品は半数が町外で購入している状況です。



<最寄り品>  
 生鮮食品  
 肉・魚（生鮮食品）  
 青果（生鮮食品）  
 一般食料品（調味料、パンなど）  
 日用雑貨・台所用品  
 など



<買回り品>  
 紳士服  
 婦人服  
 くつ・カバン  
 など



<中間品>  
 医薬品・化粧品  
 書籍・文具  
 シャツ・下着類  
 など

	四万十町	町外	ネット通販	買わない
最寄り品	83.1%	16.1%	0.5%	0.8%
買回り品	2.7%	84.1%	9.3%	13.1%
中間品	41.5%	55.7%	7.5%	2.8%

(出典：高知県経営支援課「平成28年度 県民消費動向調査」)

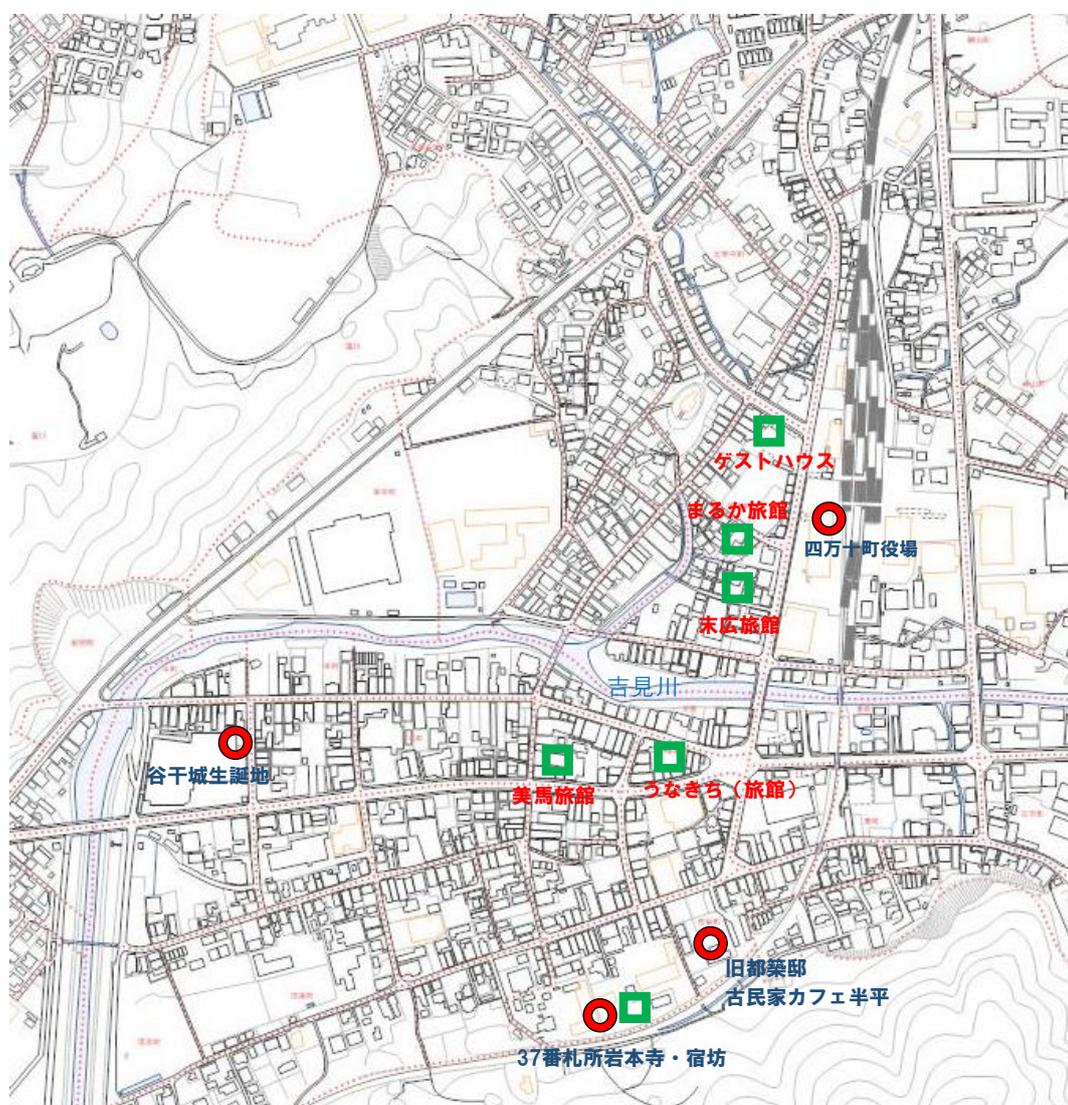
## 【観 光】

四万十町には四万十川をはじめ観光資源があり、年間 100 万人前後が訪れます。

「日本最後の清流四万十川」「沈下橋」「鯉のぼりの川渡し」「興津の浜」といった名所、「ラフティング」「SUP」「カヌー」「キャンプ場」のような体験観光、「米こめフェスタ」「あゆまつり」「よってこい四万十」などのイベント、「海洋堂ホビー館」などの施設といった観光資源がそろっています。

窪川地域中心市街地では、「四国遍路第三十七番札所岩本寺」「旧都築邸・古民家カフェ半平」「谷干城生誕地」といった名所があり多くの観光客が訪れるほか、「吉見川」の散策道のように地域の憩いの場となっている場所があります。

また、窪川地域中心市街地の宿泊施設は、旅館が4軒、宿坊が1軒あり、ゲストハウスが1軒オープン予定となっています。



## 第2章 窪川地域中心市街地の課題

現況を踏まえ、WGの意見を取り入れながら行ったSWOT分析結果は、以下のとおりです。(WGの資料をもとに一部修正)

〔 強 み 〕 (S)	〔 弱 み 〕 (W)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある食材がある。(農産物、畜産物、水産物)</li> <li>・人気のある飲食店が多い。</li> <li>・魅力のある観光資源がある。(四万十川、岩本寺など)</li> <li>・市街地がコンパクトに集積している。</li> <li>・古民家カフェ半平や文本酒造など古民家の多いまちなみがある。</li> <li>・霧が多いという特徴的な気候。</li> <li>・JR と土佐くろしお鉄道、国道 56 号線と国道 381 号線の結節点として交通の拠点になっている。</li> <li>・市街地は津波のおそれがない。</li> <li>・街中を流れる吉見川があり、癒しの場。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買回り品を中心に消費者が高知市などに流出。</li> <li>・日曜、祝日に空いている店が少ない。</li> <li>・空き家、空き店舗の増加による空洞化の進行。</li> <li>・飲み屋以外の飲食店が少ない。</li> <li>・駅周辺で時間つぶしや観光する場所が少ない、かつ分かりにくい。</li> <li>・HPなどがない店舗が多く、案内看板もないため店舗や街中の情報が外から分からない。</li> <li>・子どもが遊べる公園などの場所が少ない。</li> <li>・一部の専門性の高いサービスが受けられない。(ピアノ講師の不足など)</li> <li>・市街地利用客が止められる駐車場が少ない。</li> <li>・専門店等、店舗の多様性が失われている。</li> </ul>
〔 機 会 〕 (O)	〔 脅 威 〕 (T)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人お遍路さんが増加している。</li> <li>・魅力的な食があり、商圈を超えて来訪する理由になっている。</li> <li>・文化的施設の建設が予定されている。(令和4年度竣工予定)</li> <li>・観光列車の運行と窪川駅の改修が予定されている。(令和2年度)</li> <li>・移住が好調。</li> <li>・全国的なキャッシュレスの推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少、高齢化。</li> <li>・若年女性の流出がある。</li> <li>・高規格道路の延伸で通過点となる。</li> <li>・ネット販売の成長による町内での消費減。</li> </ul>

地域の現状、前掲のSWOT分析、協議会及びWGから出された意見を踏まえ、以下のとおり窪川地域中心市街地の課題を設定します。

#### 課題Ⅰ 空き家・空き店舗の解消

人口の減少、高齢化は脅威ですが、すぐに解決する問題ではなく現状として受け入れていかざるをえません。しかし、それにともない空き家、空き店舗が増加し、中心市街地の空洞化、活力の低下が見られます。

空き家、空き店舗は中心市街地の課題として、解消していく必要があります。

#### 課題Ⅱ 中心市街地の活力の低下への対応

空き家・空き店舗と重なる部分がありますが、それらと同時に中心商店街の人の流れ、にぎわいを取り戻すことで店舗の新設・維持につなげていくことができます。

窪川駅や旧都築邸、谷干城生誕地、岩本寺などの観光拠点への人の流れを活かし、個人商店や飲食店の情報を観光客に向け発信するなどの回遊・滞留対策を進めていくとともに、図書館を中心とした文化的施設の建設により人の動きを中心市街地へ誘導し、にぎわいを取り戻すことが必要です。

また、吉見川のように水質が改善され、居心地の良い空間を作り出している要素もあります。こうした資源を活かし、活性化につなげることも課題の一つです。

#### 課題Ⅲ 周辺観光資源の活用と連携

四万十川や沈下橋などの名所、体験観光、イベントなど中心市街地の周辺には多くの観光資源があります。また、土佐打ち刃物などの伝統工芸、豚肉や卵などの特産品も多く、目当てにくる観光客も多いことから周辺の観光資源を活用し、中心市街地への取り込みを行っていく取組が必要です。

#### 課題Ⅳ 学生や観光客が立ち寄れる場所

学校帰りの学生がスーパーやコンビニエンスストアのイートインコーナーに立ち寄って話をする姿が見られます。高校生は町内・町外の遠方から通う学生も多くなりますが、安心して立ち寄れる場所がないことが課題となっています。スクールバス、鉄道、親の迎えなどの待ち時間が発生し、何も無いのに学校に残らざるを得ない子供たちもいます。これは学生の時間的、機会的な損失にもつながり解消していく必要があります。

また、お遍路さんの休憩所、JRの待合所として役場のふれあいホールが利用されていることが多いですが、観光客の利便性を向上させるためにも気軽に立ち寄れる場所の整備が必要とされています。

### 第3章 課題の解消に向けた基本方針

課題に対する協議会としての基本方針を以下のとおり定め、取組を展開していきます。

#### 空き店舗の有効活用

空き店舗の解消に向けて、四万十町商工業振興助成金の空き店舗活用事業や特定創業支援、チャレンジショップ等の事業を活用し、中心市街地の起業・創業を促進します。また、古書街道の推進や拠点づくりなど地域住民とともに空き店舗の利活用方法を検討・実行していきます。

#### 回遊性の高いまちづくり

中心市街地の活力を高めるため、周辺地域も含めた観光資源を活用し、観光客が中心市街地に還流する取組を実施します。

また、窪川駅前案内看板の設置、文化的施設と連携しつつ古書街道やまち歩き等の推進といった取組により中心市街地への回遊性を高めていきます。

#### 誰もが楽しめるまちづくり

窪川地域中心市街地は周辺を含めた住民のものであるため、誰もが安心して楽しめるまちづくりを目指します。

課題の一つとしてあげている学生も保護者も安心して楽しめる滞留拠点づくりにつとめます。

また、世代・性別を問わず楽しめる空間づくりのため、ポケットパークや吉見川散策道など共有空間の取組を検討するほか、建設が予定されている文化的施設やまちなかイベントの「ワイワイ広場」等を活用し、小さな子どもや大人など様々な人々がもっと楽しめる場を提供していきます。

#### 地域住民との協調・協働によるまちづくり

WGを進める中で中心市街地の活性化を目指して有志によるしまんと街おこし応援団(仮称)が立ち上がろうとしています。また、四万十町の若者を中心に「シマコン」の動きが広まりつつあります。(「シマコン」とは、四万十町を愛する人たちによるまちづくりのプレインストーミングイベントとして令和元年度にはじまった活動です。)

こうした街づくりに向けた地域住民の活動の盛り上がりを活かし、協議会は、相互に協調・協働して取組を進めていくことを目指します。

## 第4章 活性化に向けた取組

### (1) 中心市街地活性化に向けた目標数値の設定

本計画における目標数値を次のとおり設定する。

#### ◆ アウトプット

項目	現 状	初年度目標 (R2)	目 標 (R4)
古書街道協賛店舗(店)	0	5	10
鬼ごっこなど街中イベントの拡充 (回/年)	0	1	2
自由なアトリエ(回/年)	1(試行)	10	18
体験観光ツアー実施回数 (回/年)	3(試行)	30	36
チャレンジショップチャレンジャー数 (店/年)	1	2	2

#### ◆ アウトカム

項目	現 状	初年度目標 (R2)	目 標 (R4)
観光入込客数・古民家カフェ半平 (人/年)	(H30)10,825	10,000	12,000
新規創業者数(人/年)	3	3	4
ワイワイ広場集客数(増加分のみ) (人/年)	0	200	500
自由なアトリエ参加人数(客数) (人/年)	30(試行)	150	270
体験観光ツアー参加人数 (人/年)	15	100	140

※ 窪川地域中心市街地内において観光入込客数を恒常的に把握しているのは「古民家カフェ半平」のみであることから中心市街地の集客数・観光客数の指標として用いる。初年度については、コロナウイルスの影響を加味し前年を下回る数値とする。

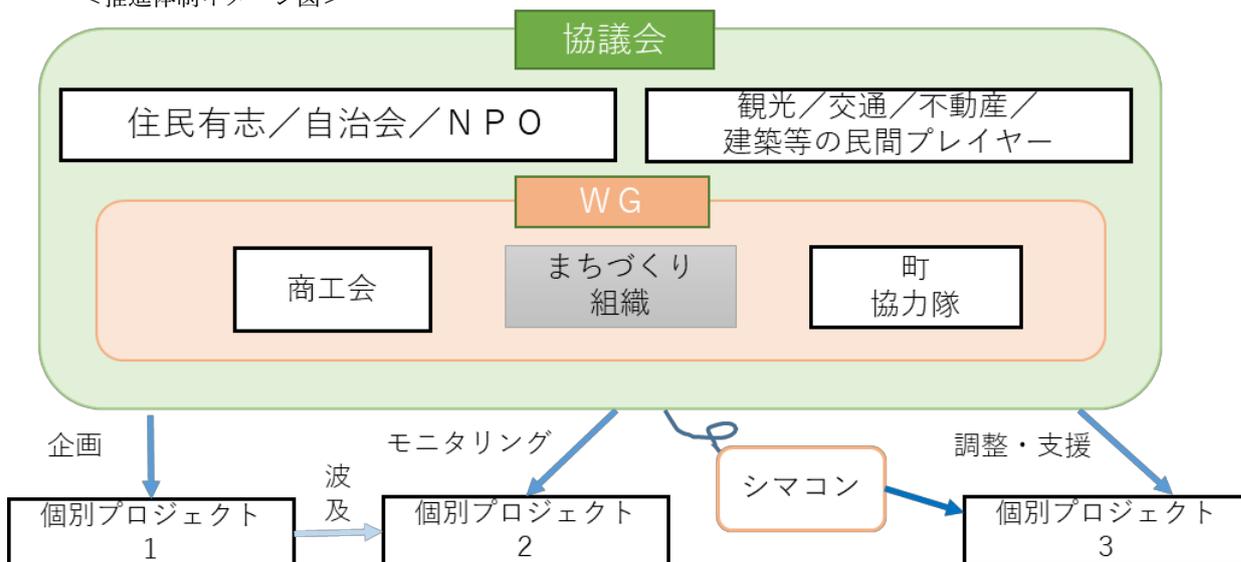
※ 創業者数については、本計画の計画範囲の区域内の数値。

※ 体験観光ツアーについては、さしあたり土佐打刃物の体験ツアー一分のみの掲載とする。その他のツアーを追加する際には適宜修正を行う。

(2) 中心市街地活性化計画の推進体制

本計画を着実に実行していくため、協議会の活動を継続し、それぞれの事業の進捗状況を共有するとともに事業の拡大や新たな取り組みへの発展につなげていきます。

<推進体制イメージ図>



<令和2年度スケジュール(予定)>



(3) 行動計画

四万十町窪川地域中心市街地活性化3カ年行動計画

事業名	事業内容等	実施主体		2年目	3年目		
		(だれが)	前半			後半	
実行体制	しまんと街おこし応援団 (仮称) 設立	まちづくり活動の実効性を確保するため、ワーキンググループ有志や町民有志からなるまちづくり推進組織を立ち上げる。	ワーキンググループ参加者、町民有志、地域おこし協力隊	・団体規約の作成 ・メンバー募集 ・設立総会 ・専門部会の立ち上げ	・まちづくり活動の実践 ・会員増強活動	・まちづくり活動の実践 ・まちづくり活動の実践	
フィールド事業	まち遊び 壮大なる「鬼ごっこ」等	窪川商店街付近をフィールドにした、大人も子供も楽しめるまち遊びを実施する。 ※金太郎夜市、谷干城ミュージカル、わいわい広場等の既存のイベントと連携して実施。	しまんと街おこし応援団 (仮称)	・イベント準備 ・広報活動	・イベント実施 ・次年度事業の企画検討	・まち遊び実施、年1～2回 ・まち遊び実施、年1～2回	
	しまんと古書街道 (しまんと40010冊プロジェクト)	全国から古本を集め、商店街と空家を活用して古書街道をつくる。究極の理想像は、英国のヘイ・オン・ワイ村 (年間100万人が来訪) のようなブックツーリズムの実現 ※店先に、地元材でつくる統一デザインの本箱を設置。本箱にはお店や箇所ごとにテーマ性を持った古書を並べる。 ※にぎわい拠点を兼ねた古書店を設けるところから始め、空き家を活用した古書店を増やしていく。	しまんと街おこし応援団 (仮称) 地域おこし協力隊	・古書収集 ・本箱デザインコンペ実施 ・古書店・まちライブラリー運用準備 ・空き家借り上げ・DIY ・本箱・本棚製作 ・古書店・まちライブラリー開業	・まちライブラリー運営 ・古書店運営 ・古書収集 ・古書店・まちライブラリー拡充	・まちライブラリー運営 ・古書店運営 ・古書収集 ・古書店・まちライブラリー拡充	
	にぎわい拠点づくり	町内の子供たち、観光客らが気軽に立ち寄れる交流スペースを設ける。 ※駅前のゲストハウス「sou. Tale Hostel」1階も、拠点施設に位置付け、観光客と町民が寛いだり活動できるスペース。	しまんと街おこし応援団 (仮称)、駅前ゲストハウス	・拠点運営 ・ミニイベント開催	・拠点運営 ・ミニイベント開催	・拠点運営 ・ミニイベント開催	
	自由なアトリエ	町内の人の自主イベント (講座・販売・展示等) 支援 ※駅前のゲストハウス「sou. Tale Hostel」1階を拠点に活動	町民有志	・企画者募集 ・広報活動	・単発のイベント/講座 5、6回 ・参加者/サポーター募集	・地域の方による継続的な講座開発 ・定期的開催の有料講座の企画 ・企画者向け講座の開催 1回	・有料の教室実施 ・有料のアトリエサポーター募集
	くぼかわ街あかりプロジェクト	風情ある街路灯を窪川市街地に整備し街中を照らす。	商工会、自治会、町、町民有志	関係機関との協議に参加することから事業展開を検討。		・街路灯企画検討	・街路灯事業実践活動
情報事業	くぼかわ案内MAP	JR窪川駅前に観光案内板を設置する。 ※街のお勧めスポットを魅力的に紹介する案内マップの作成	しまんと街おこし応援団 (仮称)、地域おこし協力隊	・イラスト案協議 ・設置場所折衝 ・イラスト制作	・イラスト制作 ・看板制作 ・看板設置	・観光案内チラシ作成・配布 ・観光案内チラシ作成・配布	
観光事業	くぼかわ発の体験型観光事業	自然体験、食、文化、地場産業を活用した体験型観光を充実させることで、窪川発の四万十川観光の確立を目指す。	しまんと街おこし応援団 (仮称)、観光協会、町	・コアチーム編成 ・コアメンバーによる自主活動	・先進地視察 ・商品開発 (まち歩き、郊外運動商品)	・商品開発企画 ・モニターツアー実施 ・有料ツアー実施	
チャレンジショップ事業	チャレンジショップ事業	商店街の空き店舗を活用し、期間限定で出店できる仕組み。 ・安価な店舗家賃により、開業当初の金銭負担を軽減する。 ・本開業に向けて、設備の具合や集客状況を確認し、無駄のない設備投資と運営体制づくりを支援する。	商工会	・現チャレンジャーの町内開業・支援 ・新規チャレンジャー募集	・新規チャレンジャーの営業をサポート	・チャレンジャーの町内開業・支援 ・新規チャレンジャー募集・営業サポート	